

二期目就任にあたって

変化と失敗を恐れず、挑戦を続けます

これまで行政は、新しい取り組みにチャレンジして失敗した場合の責任を心配する一方で、前例踏襲に終始し、行政の不作为により結果的に町や住民に不利益があったとしても、誰も責任を取らないような一面があったように思います。

これは、行政のやることに間違いはないという『行政の無謬性』が信じられていた時代が長く続いてきた結果かも知れません。

かつての日本では、人口も税収も増加し、税収の自然増収分を何の分野に配分するかが、政治と行政の大きな役割の一つでした。

また、自治体業務の多くが国の機関委任事務であり、国や県の指導通りに、事務を一律に、公正に、正確に行うことが求められた時代でもありました。

しかし、現在では、自治体業務の大部分が自治事務となり、地方の自主性及び自立性を活かし、各々の自治体の創意と工夫で、住民福祉の増進を競い合う行政経営の時代となっています。

別の言い方をすれば、日本の総人口が減少に転じ、国全体の税収が減少する一方、超高齢社会を迎え社会保障関係経費が増加し、国の財政赤字は拡大を続ける中で、これまで通りの行政サービスを維持することが困難となり、住民の皆様へ新たな負担をいただくか、或いは、これまでの行政サービスの何を削って何に配分するかを決定することが、政治と行政に求められる時代になっているのです。

住民の皆様へ新たな負担をいただくか、或いは、これまでの行政サービスの何を削って、何に配分するかを決定する際に、『絶対的な正解』や『マニュアル』は存在しません。

住民の皆様と対話し、試行錯誤する中で、自治体が自ら判断し、決定していく必要があります。

今後の自治体経営にあたっては、現在の仕組みや決定が唯一絶対的な正解ではないと認識した上で、住民の皆様と対話しながら、不断に改良・改善を繰り返し続けることが大変重要なことだと考えています。

何かを変えることはリスクを伴います。

しかし、何も変えないこともリスクを伴います。

自治体を取り巻く環境が大きく変化している現状では特にそうです。

自治体を経営する者は、変えることと変えないことのメリットとデメリットの双方を考えて、必要であれば変えていく勇気が必要です。

私は変化と失敗を恐れず、挑戦し続け、町民の皆様へ「大刀洗に住み続けたい、住んで良かった」と思っただけのまちづくりを目指します。